

平田 渡教授 略歴および主要研究業績



〈略 歴〉

出身地

1946（昭和 21）年 12 月 10 日 福岡県^{みずき}三潞郡木室村（現大川市）に、^{さしものし}指物師の長男として生まれる。

学 歴

1965（昭和 40）年 3 月 佐賀県立佐賀商業高等学校 卒業

1965（昭和 40）年 4 月 北九州大学（現北九州市立大学）外国語学部米英学科 入学

1967（昭和 42）年 10 月～ 1968（昭和 43）年 6 月

スペイン国立セビリア大学哲文学部 私費留学

1971（昭和 46）年 3 月 北九州大学（現北九州市立大学）外国語学部米英学科 卒業

1973（昭和 48）年 3 月 神戸市外国語大学大学院外国語学研究科イスペイン語学専攻修士課程
修了

職 歴

1973（昭和 48）年 4 月 関西大学法学部および商学部非常勤講師

1976（昭和 51）年 4 月 関西大学文学部専任講師

- 1980 (昭和55)年4月 関西大学文学部助教授
1988 (昭和63)年4月 関西大学文学部教授
1998 (平成10)年4月 関西大学在外研究員としてスペイン国立アルカラ大学にて研鑽を積む
2000 (平成12)年4月 関西大学外国教育研究機構教授
2009 (平成21)年4月 関西大学外国語学部教授
2014 (平成26)年4月 関西大学名誉教授 同外国語学部特別契約教授

〈主要研究業績〉

学術論文

- 「現実を見る目について—ガルドスの小説世界 (I)—」『イスパニカ』第18号 1974 日本イスパニカ学会
- 「『ドニャ・ペルフェクタ』について—ガルドスの小説世界 (II)—」『イスパニカ』第19号 1975 日本イスパニヤ学会
- 「ガルドスの小説家としての出発」『関西大学文学論集』第29号第1号 1979 関西大学文学會
- 「『ペルフェクタ夫人』は傾向小説か—その評価をめぐって—」『関西大学文学論集』第29号第2号 1979 関西大学文学會
- 「三つの貴種流離譚—セルヴァンテス、ゲーテ、ガルドスの描く少女像—」『関西大学文学論集』第29号第3号 1980 関西大学文学會
- 「ある哲学者の夢とうつつ—ガルドスの『われらの友マンソ氏』“El amigo Manso”について—」『外国学研究 XII』 1982 神戸市外国語大学外国語研究所
- 「『ドン・キホーテ』におけるパロディとカーニバルふうの笑い」『世紀末研究』第8号 1984 JCA 出版
- 「カルペンティエールの小説に現れる独裁者」『ラテンアメリカ研究年報』第8号 1988 日本ラテンアメリカ学会
- 「ブラウリオ・アレナス『パースの城』について」『パースの城』所収「解説」 1990 国書刊行会
- 「グスタボ・サインス『ガサポ (仔ウサギ)』について」『ガサポ (仔ウサギ)』所収「解説」 1993 現代企画室
- 「カルペンティエールの前半生と『エクエ・ヤンバ・オー』」『スペイン語圏の現代文学』 1995 日本スペイン協会
- 「中国起源のチャラーダ遊びとアフリカの太鼓」『関西大学東西学術研究所紀要』第30輯 1997
- 「ギリェルモ・カブレラ=インファンテ『髭のある鰐に噛まれた話』について」『ポストコロニアル文学の研究』 2001 関西大学東西学術研究所

- 「ラモン・ゴメス=デ=ラ=セルナ略伝」『関西大学東西学術研究所創立 50 周年記念論文集』
2001
- 「アレホ・カルペンティエール『エクエ・ヤンバ・オー』について」『エクエ・ヤンバ・オー』所収「訳者あとがき」2002 関西大学出版部
- 「フェデリコ・アンダーシ『解剖学者』について」『解剖学者』所収「訳者あとがき」2003 角川書店
- 「ラモン・ゴメス=デ=ラ=セルナ『グレゲリーア抄』について」『関西大学東西学術研究所紀要』第 37 輯「訳者まえがき」2004
- 「ラモンの再評価をめざして」『関西大学東西学術研究所紀要』第 39 輯 2006
- 「グレゲリーア釣り師 ラモンの青春」『グレゲリーア抄』所収「あとがきに代えて」2006 関西大学出版部
- 「ラモン・ゴメス=デ=ラ=セルナ『乳房抄』について」『乳房抄』所収「あとがきに代えて」2008 関西大学出版部
- 「ラモン・ゴメス=デ=ラ=セルナをめぐる毀誉褒貶について」『国境なきヨーロッパ』2010 関西大学出版部
- 「国際的ジャーナリストの草分け、エンリケ・ゴメス=カリーリョの塵の世を浮遊する魂」『関西大学外国語学部紀要』第 4 号 2011
- 「ゴメルス・カリーユの正体」『関西大学東西研究所創立 60 周年記念論文集』2011
- 「オスカー・ワイルドとエンリケ・ゴメス=カリーリョのあいだで交わされたサロメ談義の真相」『関西大学外国語学部紀要』第 7 号 2012

翻 訳

- オクタビオ・パス「コスモポリタンの夢—創設の文学—」『ラテンアメリカ文学案内』所収
1985 冬樹社
- アレホ・カルペンティエール『この世の王国』共訳 1985 サンリオ文庫
- ガブリエル・ガルシア=マルケス「エバは猫の中」、「イシチドリの夜」『エバは猫の中』所収
1987 サンリオ文庫
- フェリスベルト・エルナンデス「水に浮かんだ家」『エバは猫の中』所収 1987 サンリオ文庫
- アドolfo・ピオイ=カサーレス「パウリーナの思い出に」『エバは猫の中』所収 1987 サンリオ文庫
- ガブリエル・ガルシア=マルケス「カポーティの短篇小説」、「サルトルの畑がえ」、「カフカの
カリカチュア」、「再びノーベル賞について」『ユリイカ』1988 年 8 月号所収 青土社
- ホルヘ・ルイス・ボルヘス「時間」共訳『ボルヘス・オラル』所収 1988 書肆風の薔薇

- ブラウリオ・アレナス『パースの城』1990 国書刊行会
アレホ・カルペンティエール『この世の王国』改訳 共訳 水声社
グスタボ・サインス『ガサボ (仔ウサギ)』1993 現代企画室
アルベルト・ルイ=サンチェス「オクタビオ・パスの初期の詩に見られる肉体の眩暈」『季刊 iichiko』第29号所収 1993 日本バリエールアートセンター
フェリスベルト・エルナンデス「水に浮かんだ家」改訳 『美しい水死人』所収 1955 福武文庫
アドルフォ・ピオイ=カサーレス「パウリーナの思い出に」改訳 『美しい水死人』所収 1955 福武文庫
ギリェルモ・カブレラ=インファンテ「髭のある鰐に噛まれた話」『ポストコロニアル文学の研究』所収 2001 関西大学東西学術研究所
アレホ・カルペンティエール『エクエ・ヤンバ・オー』2002 関西大学出版部
フェデリコ・アンダーシ『解剖学者』2003 角川書店
ラモン・ゴメス=デ=ラ=セルナ『グレゲリーア抄』2006 関西大学出版部
ラモン・ゴメス=デ=ラ=セルナ『乳房抄』2008 関西大学出版部
マルセリーノ・アヒース=ビリャベルデ『聖なるものをめぐる哲学 ミルチャ・エリアーデ』2013 関西大学出版部
ラモン・ゴメス=デ=ラ=セルナ『えも言われぬ美しさの、きらびやかにして、永遠なる サークラス』2016 関西大学出版部

辞書

- 『現代スペイン語辞典』共著 山田善郎ほか(1990) 白水社
『現代スペイン語辞典』改訂版 共著 木村榮一ほか(1999) 白水社
『スペイン語大辞典』共著 西川喬ほか(2015) 白水社

教科書

- ルイス・セプルベダ『カモメに飛ぶ手ほどきをした猫の物語 8歳から88歳の若い人びと向き
の小説』註解 2012 同学社
アマング・レモス『イヤだな、宿題だらけの一週間』註解 2017(予定) 同学社